

県赤十字血液センターの 篠原さんに聞く！

命を救う献血にご協力ください！

今回は「献血」について、福島県赤十字血液センター会津出張所の篠原さんにインタビューしました。



県赤十字血液センター 会津出張所
しのはら のぼる
篠原 伸 さん



町健康増進課 健康支援係
うちやま ほなみ
内山 豊夏美 保健師

献血はどうして大切なのですか？

皆さんからお預かりした血液は病気の治療や手術などで毎日使用され、全国で1日約3,000人の命が輸血によって救われています。

血液には生きている細胞が含まれているため、全血製剤（400mL 献血）の使用期間は採血後21日間ととても短く、長い間保存することができません。週末の街頭献血・献血ルームなどで全国的に多数のご協力をいただいておりますが、365日24時間、いつでも病院に血液を届けるためには、毎日新しい血液が必要です。

町民の皆さんにメッセージをお願いします！

私たちは事業所の皆さんにご協力をお願いして、休日だけではなく平日の献血にも力を注いでいます。せっかくのお休み、久しぶりの有給休暇…、お休みはのんびりしたいものですが、輸血を待っている人のためにも献血バスを見かけたらぜひご協力をお願いします！



▲ 献血バス



県赤十字血液センターのホームページはこちら



町では6月29日（水）の午前中に町役場前で献血を実施予定です。ご協力いただいた人には記念品（左写真は一例）も用意していますので、皆さんのご協力をお願いします！

～ 献血に協力した皆さんの声 ～



A・Sさん（22歳）

今までも献血に興味はありましたが、貧血気味で受けることができませんでした。しかし、今回、体の調子が良かったので初めて受けてみようと思いました。献血車に入った時は緊張で体が震えましたが、献血している時間は思っていたよりも短く、献血をしている実感や達成感を感じました！



かわせ かよこ
河瀬 加代子さん（萱本）

親の病気がきっかけで誰かの役に立ちたいと思い、20歳から献血を始めました。現在69歳で献血できる最後の年齢ですが、通算回数は46回になります。献血すると血液検査の結果も分かり自分の健康のためにもなります。場所や時期によってオリジナルの景品がもらえることも楽しみのひとつです。